

〔科目名〕 マクロ経済学	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 今 喜典	〔オフィス・アワー〕 時間: 第1回講義時に説明する 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p> 一国全体の経済活動水準とその変動を説明するマクロ経済学の基本と日本のマクロ経済の現状を学ぶ。マクロ経済活動のメカニズムを知ることにより、生産量（GDP）、国民所得、物価、利子率、雇用、国際収支、為替レートなど、主要な経済指標が変化する仕組みを理解できる。 </p> <p> 近年の日本経済は、リーマンショックによる世界金融危機（2008年）、新型コロナウイルス感染症（2020年）などによって大きな打撃を受け、所得の低迷、失業の増加などを経験した。いまはバブル経済崩壊後の1990年代半ばから続く「失われた30年」といわれる長期不況が終わり、回復の動きが見える状況にあるが、2025年には米国トランプ大統領の関税政策などグローバル経済に大きな変動が生じている。 </p> <p> 経済変動の理由には、コロナ禍や大震災など自然現象要因、ロシアのウクライナ侵攻、トランプ関税という政治要因もあるが、日本や米国のような市場経済では、企業投資や家計消費など経済活動自体に内在する変動要因がある。また市場の調整プロセスの中にも大きな変動をもたらす理由がある。 </p> <p> 講義の一つの焦点は、銀行など金融が果たす役割の説明である。日本銀行は過去十年ほど継続してきた「異次元の金融緩和」という金融政策を2024年に大きく変更し、金融市場では金利が上昇しつつある。授業では、企業や家計の行動と金融の関連を説明し、金融政策の効果を検討する。 </p> <p> もう一つの焦点は、開放経済要因である。日本経済は自動車、半導体製造装置などの輸出が大きく、また企業の海外進出が増加している。金融の領域でも国際化がすすみ、金融市場は世界的に一体化している。為替レート、国際収支などを扱う開放マクロ経済学の知識が不可欠である。 </p> <p> 授業は4つの段階から構成される。第1に一国経済の生産量、物価、雇用など全体の動きを体系的かつ整合的に把握するための観察・測定の枠組みを説明する。第2はモノ、カネ、ヒトの市場を定式化する「基本マクロモデル」の説明である。第3に貿易や国際金融など海外との取引を考慮した開放経済のマクロ理論を学ぶ。最後の段階で、各国の経済成長率の格差の理由など、長期の視点からマクロ経済の変動パターンを明らかにする。 </p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p> マクロ経済学はミクロ経済学とならんで、経済学の体系の根幹をなしている。応用分野の「公共経済学」、「金融経済学」、「労働経済学」、「地域経済学」などの展開的な科目を学ぶ上で基本となる。 </p> <p> 授業では国民所得、物価、失業、金利、為替レートなどとりあげるが、これらは日々の新聞やTVニュースで頻繁に報道される基本用語である。マクロ経済用語の意味と、基本的なマクロ経済学を知らなければ、経済の動きを大きく見誤ることになる。社会人、企業人対象にさまざまな経済講演会が行われているが、その多くが「これからの景気の動き」をテーマにしている。マクロ経済がいかに関社会の日常の動きに深くかかわっているかを示すといえよう。今後の社会人としての日々の仕事の意味の理解、経営者の行動の分析、また地域社会の動き、さらに政治の場面で話題にのぼる多くの政策の議論においても、マクロ経済学の知識は欠くことができない。 </p>		
〔科目の到達目標〕 <p> 到達目標は、国民所得、物価、雇用、為替レートなどを決める基本的仕組みを学び、さまざまなマクロデータの意味と見方を学ぶことにより、日本経済の現状の理解を深めることである。 </p>		

〔ディプロマ・ポリシー (DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
○						
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕						
〔教科書〕 平川良司, 稲葉大著 『マクロ経済学-入門の「一歩前」から応用まで』(第3版)、有斐閣ストゥディア、2023年						
〔指定図書〕 福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門(第6版)』有斐閣アルマ、2023						
〔参考書〕 (1) 吉川 洋著 『現代経済学入門 マクロ経済学』(第4版)、岩波書店、2017年 (2) オリヴィエ・ブランシャール著 『ブランシャール マクロ経済学 上 (第2版) 基礎編』、『ブランシャール マクロ経済学 下 (第2版) 拡張編』、東洋経済新報社、2020年						
〔前提科目〕 経済学基礎論を履修済みであることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験のほか、授業中に小テストを行う予定である。小テストを実施する際は、原則として事前に連絡する。小テスト40点、期末試験60点の合計点で評価する。						
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講生はマクロ理論の基本を学ぶことにより、経済活動の因果連鎖を推論する楽しみを味わってほしい。理解を深めるため理論の難解な部分をとくに丁寧に解説し、また最新の日本経済の動きをデータとともに紹介し、理論と現実の経済と関連づける。 学習において、教科書の熟読がきわめて有用である。とくに講義のあとの復習を奨励する。関心を持ったテーマについては、指定図書の関連部分を読み、理解を一層深めてほしい。また、新聞やテレビのニュースをフォローし、それを参考に自分で考える習慣をつけてほしい。さらに一層深く学びたい学生は、若干レベルが高いが、指定図書と参考図書に挑戦してほしい。						
〔実務経歴〕 公的中小企業支援機関						
授業スケジュール						
第1回	テーマ(何を学ぶか):マクロ経済学とは何か 内 容:マクロ経済学のテーマの導入、日本経済のマクロ的側面の紹介 教科書・指定図書 教科書 序章					
第2回	テーマ(何を学ぶか): GDP の計測 (1) 内 容: 一国全体の経済の大きさを、どのように測るか。付加価値、三面等価 教科書・指定図書 教科書 第1章 指定図書 第1章					
第3回	テーマ(何を学ぶか):GDP の計測 (2) 内 容:実質 GDP 教科書・指定図書 教科書 第1章 指定図書 第1章					

第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):物価など</p> <p>内 容: 物価指数、失業、景気動向</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第1章 2章 指定図書 第1章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 金融市場と貨幣</p> <p>内 容: マクロ経済と金融市場、金利、銀行、信用創造、貨幣の定義</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第3章 第4章 指定図書 第5章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中央銀行</p> <p>内 容:中央銀行の機能 貨幣と物価、金融政策の手段、非伝統的金融政策</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第4章 指定図書 第5章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 財政</p> <p>内 容: 政府の予算 税制 国債 政府債務の累積</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第5章 指定図書 第8章</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): GDPの決まり方(1)</p> <p>内 容: 消費関数 GDPの決定</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): GDPの決まり方(2)</p> <p>内 容: 均衡GDPの変化 乗数</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 投資、金利とGDP</p> <p>内 容: 投資関数 貨幣市場と金利の決定</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): IS曲線とLM曲線</p> <p>内 容: 財市場の均衡と貨幣市場の均衡</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): IS-LMモデルの応用(1)</p> <p>内 容: IS-LMモデルによる政策効果の分析</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): IS-LMモデルの応用(2)</p> <p>内 容: IS-LMモデルによる政策効果の分析</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): IS-LMモデルの応用(3)</p> <p>内 容: IS-LMモデルによる政策効果の分析</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第6章 指定図書 第6章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 復習と小テスト</p> <p>内 容: 第1～6章で学んだことの要点の復習</p> <p>教科書・指定図書</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給(1)</p> <p>内 容: 物価水準の決定</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第9章</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給(2)</p> <p>内 容: 物価水準の変化</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第9章</p>

第18回	<p>テーマ(何を学ぶか): 総需要と総供給 (3)</p> <p>内 容: コロナ禍の分析</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第7章 指定図書 第9章</p>
第19回	<p>テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (1)</p> <p>内 容: AD/ASによるインフレ分析 インフレ期待 フィッシャー効果</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第8章 指定図書 第6章</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか): インフレとデフレ (2)</p> <p>内 容: インフレコスト インフレと失業 フィリップス曲線 オークン法則</p> <p>教科書・指定図書 教科書第8章 指定図書 第9章</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (1)</p> <p>内 容: 開放経済 国際収支 外国為替市場 外国為替レート</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第9章 指定図書 第12章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (2)</p> <p>内 容: 為替レートの決め方 金利平価</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第9章 指定図書 第12章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか): オープン・エコノミーのマクロ経済学 (3)</p> <p>内 容: 開放経済での金融政策</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第9章 指定図書 第12章</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (1)</p> <p>内 容: 成長要因 ソローモデル</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章 指定図書 第11章</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (2)</p> <p>内 容: 貯蓄の効果 人口成長 技術進歩</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章 指定図書 第11章</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか): 経済成長 (3)</p> <p>内 容: 経済成長の要因分解 成長会計 全要素生産性</p> <p>教科書・指定図書 教科書第10章 指定図書 第11章</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (1)</p> <p>内 容: 資産価格の決め方 割引現在価値</p> <p>教科書・指定図書 教科書 第11章 指定図書 第4章</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか): 資産市場 (2)</p> <p>内 容: バブルの発生と崩壊</p> <p>教科書・指定図書 教科書第11章 指定図書 第4章</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか): 後半の復習</p> <p>内 容: 物価の決定以降の要点復習</p> <p>教科書・指定図書 教科書第7～11章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか): 全体の復習</p> <p>内 容: 全体の要点復習</p> <p>教科書・指定図書 教科書: 1章～11章の復習</p>
試験	筆記試験